

## 神と政府

2008年11月9日 アシエル・イントレーター

21世紀において覚えるべき御言葉の一つは箴言 21:1「**王の心は主の手の中にあつて、水の流れるようだ。みこころのままに向きを変えられる。**」主に捧げられた信仰の祈りには、選出された公務員たちの心を導くことができる力があることを覚えようではありませんか。

## エルサレムでの総選挙

火曜日にエルサレム市長選挙が行われます。候補者は2人おり、1人はニル・バルカット氏で、イスラエル軍歴を持つ保守的なビジネスマンで、もう1人はメイア・ポルシュ氏で、超正統派でありイスラエルのメシアニック・ジューに対して戦いをしかけています。(私の息子たちはバルカット氏の選挙活動のボランティアをしています。)どうか神のみこころがなされますよう、祈りと断食において私たちと心を合わせて下さい。

## リクード党

ベニヤミン・ネタニヤフ氏は、政治の世界から数年間離れていましたが、今週リクード党の二人の元指導者であるベニー・ベギン氏(ベギン元首相の息子)とダン・メリドール氏(元法務大臣)からの後援を受け、党に戻ることを決めました。ネタニヤフ氏は2009年2月1日に予定されている総選挙において、次の首相となるべく先頭に立っています。

## 反宣教活動の脅威

最近、私を含めて5つの地元のメシアニック指導者たちは、主な「反宣教」組織から訴えると脅されています。どうか私たちのために、また過去攻撃されたすべての人々のために知恵と守りがありますよう、また神が、彼らが悪を意図したものが善に変えられますようにお祈り下さい。

## アメリカ総選挙

私の友人であるフランシス・フランギパン師が新しいアメリカ政府に関する希望と信仰の見解を与えています。以下は彼の記事からの抜粋です。

「覚えて頂きたいのは、私たちの国(アメリカ)の将来は選挙によって決定されるのではなく、選出された者の信仰によるのです。もし私たちが神を求め続け、謙り、執り成しをあきらめなければ、神はこの国を驚くべき強力な方法でご自身に向けさせることができるのです。

バラク・オバマ氏の勝利は大半のアフリカ系アメリカ人を深い喜びで満たしました。確かに、黒人大統領の選出は、全背景の大多数のアメリカ人はアメリカンドリームが実現したと言っています。

私たちの「忠誠の誓い(注)」の言葉を考えてみて下さい。私たちの忠誠は単に国旗だけに対してではなく、「その国旗が象徴する共和国」に捧げられるのです。私たちの忠誠は「神のもとに統一され全ての人々に自由と正義が約束された不可分の国」のためにあるのです。

訳注:アメリカ合衆国の「忠誠の誓い "Pledge of Allegiance"」は、国旗掲揚の際に必ず唱和するもので、全国民が覚えているものです。全文は"*I pledge allegiance to the flag of the United States of America, and to the Republic for which it stands: one Nation under God, indivisible, With Liberty and Justice for all.*" (和訳)「私はアメリカ合衆国の国旗と、その国旗が象徴する共和国、神のもとに統一され全ての人々に自由と正義が約束された不可分の国に忠誠を誓います」

今、黒人がこの国の最高権力の座に登ることにより、絶望によって縛られていたところに希望が高まっています。この人種間の癒やしによる突破口は長い間神のみこころとしてありました。

誰が大統領に選ばれようと、アメリカに直面している問題は膨大です。経済破綻の脅威、世界中の紛争、そして新しい冷戦などすべてが新大統領を待っています。これらの主な問題に対して私たちは彼のために祈らねばなりません。彼の成功が我々の成功となるように。(エレミヤ 29:7)

オバマ氏の確固たる中絶賛成に投票してきた過去についてはどうなのか

私はクリスチャンになってから数年間、聖霊が中絶の恐怖を明らかにするまで特に意識しませんでした。それはある瞬間起こりました。恐らく誰かが私のために祈ってくれたのでしょうか、しかし神が理解させたのです。同じように、神は私たちの新大統領を理解させることが可能です。中絶が彼にとって非難される行為となるまで、イエス・キリストがオバマ大統領の良心の「心の等級」を高めることができるという信仰を持ちましょう。

また、アメリカがリベラル(自由主義)になってはいないことを言わせて下さい。アメリカ人の大半はまだ中道右寄り(訳注:保守的)です。カルフォルニアにおいてさえ、選挙民は同性愛婚を禁止しました。

イスラエルはどうでしょう。新大統領はユダヤ人に反するでしょうか。新大統領となるオバマ氏が最初の閣僚の地位に選んだのはラーム・エマニュエル氏(訳注:ホワイトハウス首席補佐官で、彼のフルネームは「ラーム・イスラエル・エマニュエル」)です。エマニュエル氏は「ハード・チャージャー(注)」で、非常に賢いシカゴの政治家です。党派心の強い人ではありますが、彼は

左翼過激派であるよりはより中道派です。彼について皆さんが知らないであろうことは、彼はユダヤ人だということです。彼の父はエルサレムからアメリカに移民してきた人で、イルグンのメンバーであった人です。イルグンとは1931年から1948年の間イギリスによるパレスチナ地方の委任統治時代に活発であったシオニスト過激派グループです。エマニュエル氏がイスラエルを擁護する保証はありませんが、家族はシカゴのシナゴークで活発に活動しているラーム・エマニュエル氏がユダヤ人やエルサレムを見捨てるとは私は思えません。

訳注:ハード・チャージャー:直接の日本語訳はなく、意味は「仕事や自分が決めた目的に対して積極的に追求する人のこと。」

私はバラク・オバマ氏が信じるすべてを政治的に、または倫理的に同意するとは言っていませんが、覚えて頂きたいのは、彼の最初の計画の1つは神と宗教を民主党に持ち込むことにあるのです。彼の党の中にいる、キリスト教を拒絶した者の影響に対して彼は戦い、彼は民主党に信仰が存在することができ、それが栄えるように求めているのです。

それゆえ親愛なる友人たち、今は絶望の時ではなく、希望を伴うビジョンを持って祈る時です。もし皆さんが「人の手のひらほどの小さな雲(1列王記 18:44)」しか見えないのであれば、エリヤの信仰を持って大いなる恵みの注ぎがあるよう祈りましょう。神が私たちの世界に祝福され、祈られた現実をもたらす機会があるよう祈りましょう。」

フランシス・フランギパン師の団体についての情報は、[www.frangipane.org](http://www.frangipane.org)に連絡して下さい。